

神楽名

よ かり うち 夜狩内神楽

伝承地

夜狩内地区
椎葉村大字下福良夜狩内

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

夜狩内神楽保存会
代表 那須 正己



弓の正護

◆ 神楽の概要・由来・その他

夜狩内神楽は、氏神さまである天満天神と森鹿倉神社に、五穀豊穡と無病息災を願い奉納される。各神社の御神木には注連がかけられ、御神酒を入れた竹筒の「かけぐり」や米粉と麴を水で練ったものを榊葉にのせた「ごふ」等が供えられる。笹竹に集落の人数分の白紙の紙垂れを吊した「人物の弊」も添えられる。それぞれの神社では、神事の後に神迎いの神楽として「座付」等が舞われ、「神迎いの弊」に神を勧請する。神楽宿である夜狩内集会センターの高天原に「神迎いの弊」を納め、神々を迎えての神楽が明け方近くまで奉納される。

舞処である御神屋は、四隅に竹を立て四方に注連をはる。その注連には切り下げの御幣と榊枝が交互に下げられる。天井中央には「星の幣」と呼ばれる白い御幣が、小銭、麻緒、米などと共に吊り下げられる。正面中央には祭壇の高天原が設置され、神迎いの御幣、金の御幣、榊などが藁束の上に立てられる。御神屋のそとも、五色の幣を吊した木が高く飾られ、森の中で舞っているかのように設えられる。

◆ 芸能の機会・場所

- 夜狩内夜神楽… 12月の第3土・日曜日頃、夜狩内集会センターにて「板起し」の後天満天神と森鹿倉神にて1～2番奉納。その後、夜狩内集会センターにて夜神楽を奉納
- 鈴の口開け… 1月～3月の頃、新年の神楽始めの行事。「座付」「神迎い」「弊の手」を奉納

◆ 演目一覧

板起し

座付(天満天神)

座付・上の重(森鹿倉神社)

神迎いの神楽・高天原

一神楽

座付

上の重

禊の手の舞

地割の舞

扇の舞

稻荷神楽

しゃからほう

願成就

弊ノ手

温野手の舞・飛ぶとこ

矢の手の舞

大尽神楽

矢の手の舞・鈴なし

弓の正護

神送り

※平成27年12月に奉納された演目に基づく

◆ 演目の特徴

「願成就」では、御神屋回りの注連縄に吊された榊葉を手に採って御神屋に入り、東・南・西・北・中央の五方を向き願成就の唱え言し、三度の拝みをする。この演目では、女性を含む参拝者も願主として御神屋に入ることが許される。来年も病気や不浄のないように祈願するもので、榊葉はお守りとして大事に持ち帰る。

「温野手の舞・飛ぶとこ」はもち米をのせた盆を両手で持つ三人舞で、激しく舞った後に散米をする。舞の途中に仮装した村人数名が、芝(榊木)を床に引きずり、御神屋に乱入する「芝入れ」がある。乱入者たちは太夫にとがめられ、ことわりを言って酒と肴を太夫に差しだし、もう御神屋を荒らさないと退く。

◆ その他の特徴

- 面... 鬼神面、等
- 楽... 太鼓、笛、鉦(銅拍子)
- 装束... 舞衣、袴、烏帽子、毛笠(竹の輪に五色の上垂れ) 等
- 採り物... 御幣、扇、鈴、刀、弓、矢、盆 等
- 文書... 「文政七年(1824)中野八重 利平八□」の墨書のある「高天原ノ云い句」には、「高天原の唱教」をはじめ「温野荒神問答」等が記されている

◆ 伝承の現状・課題

夜狩内集会センターが建設される以前は、民家を神楽宿とし輪番で夜神楽を奉納していた。現在、保存会会員は40名ほどいるが、実際の舞い手は12名から13名と少ない。地域外に住んでいる人も多く、夜神楽の継承のための方法が模索されている。



神迎え



しゃからほう



温野手の舞